

第1回射水市公共交通検討協議会

平成26年10月17日 午前10時
射水市大島庁舎3F 302会議室

次 第

開 会

1. あいさつ
2. 委員紹介
3. 協議会について
4. 会長、副会長の選出について
5. 説明事項
 - (1) 射水市公共交通プランについて・・・・・・・・・・資料1
 - (2) コミュニティバス・デマンドタクシーについて・・・資料2・資料3
 - (3) 通勤通学に特化したコミュニティバス運行ルート改正案等について
・・・・・・・・・・資料4
6. その他

第1回射水市公共交通検討協議会会議録（要旨）

日時：平成26年10月17日（金）

午前10時00分から12時00分まで

場所：射水市役所大島庁舎3階302会議室

1 出席者（会長1名 副会長1名 委員5名 事務局5名 合計12名）

2 内容

（事務局）

それでは、案内のお時間となりましたので、ただ今から、平成26年度第1回射水市公共交通検討協議会を開催いたします。会議に先立ちまして、お手元の資料を確認したいと思います。

【資料の確認】

それでは、次第に基づきまして、事務局からご挨拶申し上げます。

（事務局） 皆さん、おはようございます。お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。

進行からしますと、まず、これまで射水市が実施してきている事業の現況についてのご紹介となると思います。

市役所主導の会議となりますと、堅苦しいとのイメージを思い浮かべられると思いますが、可能な限りざっくばらんな感じで、ご意見をお聞かせいただきたいと思います。自由活発ということが、この会議のテーマになればよいと思っております。

この会議は、今年度の予算を作成するに当たって、市長、副市長に「是非、この会議はやらなければならない。」と話してきた経緯があります。一方、これとは別に、射水市には射水市バス交通会議という別の会議がありますが、決裁会議との認識を持っています。できれば、利用者、生の市民の声を発案の段階でどんどん生かしていくような意見をまとめる場というものが、是非とも必要と話し、市長査定の段階で、予算は小さいですが、敢えて残してもらった経緯がありますので、この会議は極めて大事なものだという認識をして

おります。

是非、よろしくお願ひしたいと思っております。

本市で公共交通と言え、コミュニティバス、万葉線、あいの風とやま鉄道といったものですが、とりわけコミュニティバスについては、一部デマンドですが、従来、許可制だったものが届け出制になった。民間路線バスは、採算が合わなくても、路線廃止の際には許可が必要であった。それが届け出制となったことで、本市としては、交通空白地帯が発生し、公共がケアしなければならなくなったといったところから始まったとの認識を持っています。

今現在、多くの一般財源を投入して、移動制約者等の皆さんの足をケアするといったことをやっています。先が見通せない中で、恐らく、本市に限らずやってくるのだらうと、自分の力量以上のところに到達していると考えています。実際、メリハリといったものをどこに付けばよいのかといったことが、問題になってきています。本市だけの問題ではないにせよ、メリハリをつけたいと考えています。その際には、委員の皆さんのお知恵をお借りしたいですし、場合によっては、データのものの再確認もしてみたいと考えています。是非とも、射水市なりの公共交通の在り方といったものを考えていきたいと思っております。

目の前には新幹線も近づいていることや、同時にあいの風とやま鉄道への移管もある中で、射水のまちづくりを真剣に考えていきたいと思っております。

射水市は当然、富山市でもなければ高岡でもない、新川でもなければ五箇山でもない。射水には射水のまちの特性があります。ここに合ったようなカタチを考えていく必要があります。少子高齢化、人口減少社会といったことも言われている。古くから言われている言葉ですが、基本的に都市間競争だと思っております。射水市が10年後、今より、より優位な立場をしっかりとキープすることで、次世代に誇りを持てるようなまちづくりが可能になる。それをサポートしていくためには、従来のままの公共交通を検討せずに進めていくのではなくて、将来に向けて射水市の公共交通が、どのようなことをやっていくべきなのか考える機会に、是非、この場を使わせていただきたいと思っております。

是非、皆様方のお知恵をお借りしたいと思っております。

最初に申しあげましたが、公式会議の場ではありますが、あくまでアイデアや知恵を、お互いに出し合いたいと思っております。ご遠慮なさらずに、自由活発な意見交換をお願いいたします。よろしくお願ひいたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

(事務局) ありがとうございます。それでは、次第の「3要綱説明等」について、ご説明します。

【資料に基づいて説明】

以上ですが、この件に関して、質問等はございますか。

ご質問等がないようですので、続いて、次第の「4委員紹介」についてです。配布しました委員名簿の順に、簡単に自己紹介をお願いします。

【各委員の紹介】

(事務局) ありがとうございます。
それでは、事務局のご紹介をさせていただきます。

【事務局自己紹介】

(事務局) それでは、次第の「5会長及び副会長選出」についてです。
先ほどもご説明しましたが、要綱第5条の規定により、会長及び副会長は委員の互選によって定めることとなっております。委員の皆様で、会長の互選をしていただけたら助かりますので、よろしくお願いいいたします。

【会長、副会長の選任】

(事務局) それでは、今ほど、会長と副会長が決まりましたので、会議の進行は、会長が行うこととなっております。今後の会議の進行につきましては、会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいいたします。

【会長挨拶】

(会長) それでは、お手元の資料や議事に沿って、進めさせていただきます。次第の「6説明事項」についてです。「(1)射水市公共交

通プランの概要について」を、事務局から説明をお願いします。

【事務局 資料に沿って説明】

(会長) ありがとうございました。
ただいま説明のありました「(1)射水市公共交通プランの概要について」ご質問等はございますか。

【質問なし】

(会長) 今のは概要の説明だけでしたので、これから詳細な説明を終えた後で、改めてご質問等があれば、よろしくをお願いします。
続きまして「(2)コミュニティバス及びデマンドタクシーについて」を、事務局から説明をお願いします。

【事務局 資料に沿って説明】

(会長) ありがとうございました。
では、ただいま、事業の収入支出や利用人数等について説明のありました「(2)コミュニティバス及びデマンドタクシーについて」ご質問等はございますか。

(委員) デマンドタクシーについてですが、利用者が予約した際に、大体何時頃に到着予定といった案内はしているのでしょうか。

(事務局) しておりません。
デマンドタクシーの予約をされた人が、仮に3人おられた場合、最適なルートタクシー会社が設定をしますが、特に何時頃に到着するといった案内はしていません。基本的には自宅で待っていただいている場合が多いです。

(委員) そういった対応で、苦情が来たりはしないのでしょうか。

(事務局) 市としては、時間定時から大体20分以内に迎えに来るといったことを、利用者に話しています。タクシーの台数としては、定時に大体2台、多ければ3台用意しています。現在のところ、苦情はありません。

(会長) コミバスの利用人数について、資料に実績の推移が載っています。平成19年度に43万人程度だったものが、近年40万人程度まで減ってきています。平成25年度においては、38万人程度と、さらに2万人程度減っていますが、何故なのでしょう。

(事務局) 平成22年度までについては、今ほどご説明しました通り、デマンドタクシーはなかったもので、すべてコミュニティバスの人数となっていますが、平成23年度以降については、デマンドタクシーに移行しており、その分的人数が、入っていないものとなっています。

(事務局) 利用者数については、割と天候等に影響を受ける傾向があります。例えば、冬場等に雪等が降っていれば、割と利用者が増えるといった傾向があります。ここ最近も、暖冬傾向といったこともあり、その影響を受けたのではないかと考えた部分もあると考えています。また、通学生が1人減っただけでも、月にすると40人の減となり、年間にするとさらに大きな減に繋がるといったこともあります。

(会長) ありがとうございます。ほかに何かございますか。
なければ、次に、「(3) 通勤通学に特化したコミュニティバス運行ルート及びダイヤ検討案等について」を、事務局から説明をお願いします。

【事務局 資料に沿って説明】

(会長) ありがとうございます。
では、ただいま説明のありました「(3) 通勤通学に特化したコミュニティバス運行ルート及びダイヤ検討案等について」ご質問等ございますか。

(会長) 何も意見等がなければ、次回、この提示された案で行くことになるのでしょうか。

(事務局) 今回の案は、たたき台ということで説明させていただきましたが、いきなりのことですし、委員の方々からすぐに色々な意見が出て来づらいう状態だと思います。先ほども説明したとおり、様々な課題があり、その課題をクリアしながら、通勤通学の快速便の路線を、来年辺り1路線、実験的にやってみて、実施をしながら、他の路線に

広げていきたいといった考えを持っています。委員の方々から色々なご意見をいただきたいと思っております。後程ご説明させていただきたいとも考えていましたが、次回、1月か2月に、第2回のこの会議を開くまでの間に、メールや電話等で、ご意見をいただければと考えています。

せっかくですので、何でも結構ですので、意見等お願いしたいと考えています。

(副会長) 公共交通機関というのは、乗り合いバス、定時定路線バス、タクシーがありますが公共交通機関と一般貸し切りバスとか区別されず、よく勘違いされることがあります。その辺りを区別していただいて、考えていただいた方が、明確になるのではないかと思います。貸し切りバスが、今年の7月に、国から決められて、ものすごく高く、簡単に言いますと、倍くらいの値段になってしまいました。射北中学校の冬季バスが貸し切りですので、ご存じだとは思いますが、今までの値段ではできなくなってしまいます。そうすると、今回案として示された、通勤通学に特化した運行といったもので、例えば季節的に、学校に行かせるようなバス路線が、冬期間だけ人数が増えますので「学生にやさしい射水市」といったふうになるのかなと思います。とてもよいと感じたのは、今回の会議は、行政サイドと業者サイドのみの会議ではなくて、一般の方々もご出席なさっている点だと思っています。東京の方では、じいちゃん、ばあちゃんも一緒になって会議に出ています。そのじいちゃん、ばあちゃんが、どういうふうに乗ったらいいか、便利になるのかといった色々な意見を述べられて、例えば小平市の例では、コミバスを使ってやっています。今度は、学生をお持ちのお母さんたちと一緒に、このような場で意見を出してもらった方が、通勤通学に特化した運行といったものについて、話が進んでいくのではないかと思います。

(委員) 射北中学校では、PTAが主体となって1シーズンの使用料を納めて、それこそ、近くのバス停から学校の入り口まで、また、学校によっては、例えば、帰宅時間に合わせた運行があると思いますが、半日で終わる場合は、1時半に運行しており、非常に保護者としては安心して、朝送り出せます。これまではそれでよかったのですが、富山高専に通っていた娘が、一昨年ぐらいであったと思いますが、PTA主体のバスを利用した際に、料金がコミュニティバスの方がコストは低いといったことで、コミュニティバスの利用が増えたことがあり、娘

が何度か乗れませんでした。結局、私自身がたまたま家にいたので、何回か学校に送って行ったことがありました。今回、この会議に出るに当たって、どういうところがよくて、どういうところが不便だったと娘に聞いたところ、ちょっとその辺りがと言っていました。乗っている中学生や一般の方が、もう少しマナーがあって、2、3歩中に入ってくれれば乗車できたのにとか、運転手さんも何も言ってくれなかった、といったところが困っていた点です。よかったのは、娘が乗っていた路線は、路線でしたが、コミュニティバスでの通学を5年間しました。PTAバスはPTAバスなりの課題もあり、普段乗れているものが乗れなかったというのも課題だと受け止めました。また、私自身としては、JRに乗りたい時で家族に送ってもらえない時は、コミュニティバスを利用させていただいています。私の年代にしては、コミュニティバスを利用している方だとは思いますが、乗ってみると、いずれ自分が自家用車を離す年代になった時には、お世話になるのだと思うと、生活の足として、密着したバスをずっと継続してほしいと思います。10年20年続けていただきたいという思いです。もうちょっと若い世代、子ども世代で、いろんな体験として、例えば、コミュニティバスに乗ったり、PTAの学年活動として、コミュニティバスに乗って、射水市にもいろんな美術館等といった良い施設があるので、わざわざ他市に行かなくても、コミュニティバスを乗り継いで、学んで、地域を見て回るといった、具体的な案までとはいかなくても、可能かなと思います。ついつい、市外の大きな文化施設を発想してしまいますが、市内を見直すきっかけになるのではないかと思います。

(事務局) 今ほど、おっしゃっていただいたこと、例えば受益者負担の在り方とか、今現在の事について、消化していきたいとは思っています。私自身、先ほども話したように、これからは都市間競争の時代であると思っています。先ほど課が説明した、通勤通学に特化した運行というのは、来年度の試行について、やらせていただきたいのだろうなと思っていますが、むしろその先、5年後10年後、コミュニティバスや公共交通が果たすべき役割、守備範囲というのを話していただけたらと思っています。

射水市は、生活がしやすいところ、ということを目指すのだろうと思っており、市長が子育てしやすいまち、ということをおっしゃりまして、いくつか定住人口の跳ね返りがあるようですが、私からすると、例えばJRの駅になるべく早く直結し、速達性のあるような公共交通機関がいろんなところにあって、住むのは射水市、勤めや学校は富山や高岡に行くかもしれない、でも住むのは射水市がい

いといったようなことを目指して、特化していくようなこと、一方で、高齢化社会を見過ごすわけにはいかないので、病院というものをどのような形でケアするか、今、速達性が弱いから、10年後の射水市を想定した形で公共交通機関の果たす役割を考えていきたいと思っています。中学校や高校といったところも、周囲に店がないっていうか、小杉の駅前にも言えることですが、色々なところにもっと人が出てくれるよう、サポートするのが公共交通機関であり、酒を飲んだあと送る役目を公共交通機関が担えとまでは言いませんが、活気のあるような場所をサポートしていくというような役割と感じています。最近、射水市は子育てにいいみたいだねと聞かれることが多くなってきました。アパートに転居に来られるといいだとか、何か射水市って元気があるよねとか、言われるようになってきたらいいかなと思っています。一方で、違う話になりますが、中でよく言われるが、生活サポート公共交通機関、観光サポート公共交通機関、ある種ごっちゃになっています。私自身、市長、副市長によく言っているのは、市民環境部っていうのは、基本的に生活支援のことを多く考えている、日常生活を支援する、通勤通学であったりとか、通院であったりとかいったことをサポートするようなものが基軸にあると思っています。観光サポート的な、非日常的なもの、交流人口のサポートについては、産業経済部の観光が中心となって、むしろ、そこで必要なものを、われわれのようなパイプを持っている部が、つなく役割を担う。あくまで、こちら側は生活支援、生活サポートを中心に考えていかなければならないと考えています。これらについても、ご意見を頂戴できればと考えています。

(副会長) 私自身、富山市の森市長がやっている施策が羨ましく、射水市でもできればよいと感じています。公共交通プランについては、非常に見やすく、わかりやすく書いてあると思います。会議を進めていく上でも、方向性について、この会議でベクトルを定めていけばよいのではないのでしょうか。何か一つテーマがあって、それに向けて進めていけばいいのではないのでしょうか。

(事務局) 次回の会議までに相談させていただいて、濃淡をつけて凝縮していく。射水市としては、定住人口を増やしたいと。それに公共交通はサポートしていくのだということ。それには何ができるか。そのための問題の絞り込みができたらいいと思っています。最終的にそれに向けてすぐにできる実施案と、3、4年後にできる実施案と出てくるとは思いますが、ある程度議会等に対して、体系付けをして説

明しやすくなるということがありますので、詰めてみたいと考えています。

(会長) 委員の方々に、聞いておきたいこととかはありますか。

(事務局) 率直に、われわれは、どのような立場でコミュニティバスを実施しているかといいますと、即座に利用者等から、すぐそこにバス停があるのに、目の前に、別にバス停を新設してくれといった話があります。全体は見なくていい。私だけの都合でといった要望を耳にすることが多いです。自家用車から離れてコミュニティバスに向かうベクトルは必要だと思いますが、富山県はまだまだ自家用車が強い。われわれも自家用車族である。そうすると、コミュニティバスは税金を使って運行しているのだなと思う。税金を使っているのに乗っていないといったことを言われます。地球温暖化や交通安全といった観点からも、公共交通というものは必要であるといった考えはありますが、一方で、無駄ではないかといった話もあります。率直にどのように思われますか。

(委員) 私としては、無駄とは思いません。高齢者等の足として必要だと思っています。運行に関して税金が使われているといった事にも、特に違和感ありません。受益者負担率が2割ほどで低いといった話についても、金額を上げればよいのではないかと、特に思いません。実際に、運賃を上げるべきとの話があるのでしょうか。

(事務局) 内輪の中でしょうか。特に財政サイドから。

(会長) 先ほど、合併したことによる特例措置が、もう少しで消えるといった時に、少ない予算で、今と同程度に、この事業に投資してよいのかという話は、今後出てくると思います。そうするとやはり、利用者を増やしていかないと、今あるすばらしいものを保てなくなるといった事があると思います。どうすればもっと利用者を増やせるのかといったことを考えていかなければ、持続可能とするためにも、悪い方向に行ってしまうと、車がないと生活できない。車はバスと違って様々な方向に自由に行けるが、集まる箇所がない。集まる箇所がないと、お店とかも成立しない。そういった副作用を考えれば、やはり利用者を増やし、そのために利便性をあげることを考えないといけません。

(事務局) 極端な例ですが、例えば、小杉駅前を渋谷駅前と仮定した場合、小杉駅が行きたくなるような場所だとします。そこには駐車場はほぼない。するとそこに皆が行きたいとなった場合、否が応でも公共交通を使わざるを得ないとなる。射水市としたら、新庁舎が完成したり、分庁舎の跡地といった話がある等、まちなかが変わってきたりする。そうすると、どこかで行ってみたいくなる場所のようなものができて、先ほどの話ではありませんが、受益者負担率、仮に20パーセントとした場合、コミュニティバス事業は2億数千万の事業ですが、利用者が2倍に増えたところで、それほどコストは変わらない。そうすると、より多くの人を外に出てくれたら、そこに大量に輸送するようになれば、まちと有機的に結ぶような状態となるし、まちに元気が出てくるといったことを、バス主導でということではないですが、バスがサポートする力はあるのだろうだと思っています。決して今すぐってことではありませんが。

(委員) 私自身は、あまりコミュニティバスは利用していません。わからないことがたくさんあります。ライトレールに繋がっている路線があることも初めて知りました。射北中学校に貸し切りがあるということも知りませんでした。私の子どもは小杉中学校なのですが、羨ましいと思いました。冬季期間のみ利用していますが満員で、いつも立っている状態。気分が悪くなって吐いている子もいたという話も聞いたことがあります。帰りの時間が合わない時もあり、貸し切りではないので、その時は待っているか、私がいる時は電話がかかってきて迎えに行ってしまう。定期券を購入してもあまり納得いかないという気持ちもあります。

(会長) もう少し、利用される時間帯に運行すればよいということでしょうか。

(委員) そうですね。

小杉中学校にも貸し切りがあったら良いのにと思いました。子ども達ももっと公共交通機関を利用することは社会勉強にもなるし、バスで県外に行くよりも、これは教育の部分になると思いますが、市内で使ってみたらよいと思います。切符も自分で買った経験がないとかも聞くので。私自身は子どもに、自分で切符を買って、JR等で、どんどん乗って何処にでも行って来いと言っています。中学生なのでファボーレにも、イオンにも行ける。その時にバスとJRを乗り継いで使いますが、いけないことかもしれないが、仮にファボーレやイオ

ンまで行く路線があれば、子ども達は乗るだろうと思います。

(副会長) 公共交通機関の再生というのは、ヒューマン的な要因が一番強い
です。今おっしゃられた通りであり、そのような掘り起しをしてい
かなければいけないと思います。ある本を読んでいると、高齢者や
子ども達が出てくるような会議は、やはりこのような意見が出ている
ようです。実は、普段はマイカーばかりに乗っていて、どこに何が
走っているかまったく知らない場合が多い。
事業者も、もっと告知していかなければならないと思います。
事業者の立場ではない委員の方のご意見は、非常にありがたいです。
別のお母さん方にも、色々聞いていただけるとありがたいです。

(会長) 今の話を聞いて、学校との連帯といったものはあるのでしょうか。
例えば、小学校で貸し切りバスを使って何処かに行くというのはよく
聞きますが、むしろ、そういう時に、コミュニティバスを使って行け
るといったことがあるのでしょうか。私の小1の息子が、魚津のミラ
ージュランドに行くはずが、雨と台風で流れたことがありました。
なぜ流れたかという、貸し切りバスだったことが起因していたよう
で、もう少し公共交通を使えば行けたかもしれない。利用者促進策の
アイデアのひとつとして、学校との連帯とかはどうでしょうか。

(事務局) コミュニティバスの利用について、小学校というレベルではあり
ませんが、保育園や幼稚園については、コミュニティバス団体利用
の申請がよくあります。割と10人、20人単位で申請があり、そ
れについては、ある程度利用されています。小学校はあまりありま
せん。バスの乗車人数にはキャパシティもあり、限りある予算の中
での運行であることから、増車するとかはなかなかできないのが現
状です。中型バスが主流です。中型バスだと27人乗りですので、
乗車人数に関する課題はあります。

(事務局) 万葉線の場合、万葉線にもっと親しんでもらおうということで、
万葉線対策協議会というものがあります。万葉線に乗って、色々な
ところへ行くために、募集をかけたりにしています。射水市にコミバ
ス対策協議会のようなものがあって、年に何回か射水のおもしろい
ところ、できれば小中学生と保護者とのセットで申し込んでくださ
いといったことを、定期的にやって行けば、事業PRにもなる。
射水市のコミュニティバスはこういうものを目指していますといっ
たことを記載しつつ、結構面白いかなと。中で話はしてみます。

色々なアイデアを、是非いただきたい。

(委員) 私自身、コミュニティバスは乗ったことはないです。先ほどお話しがあったとおり、まったく話がわかりません。私の同世代の人からも、コミュニティバスに乗るといったことを聞いたこともありません。若い世代の方々にもすぐにコミュニティバスだとわかるようなPRをすると、少しは変わってくるのかなと思います。バスのラッピングとかはできるのでしょうか。何か射水市らしいもので。射水市に行くとかかわいいバスが見られる、乗れるといったものがあればいいのかなと思いました。

(事務局) 例えば、万葉線のドラえもん ترامのイメージでしょうか。ライトレールでもやっているようなその射水市らしさを持ったラッピングをすればよいというイメージでよいでしょうか。

(委員) そうです。

(副会長) 将来的な意見で。今、射水市でバスロケシステムがありますが、5つの事業者がばらばらで管理していますが、管理会社を1つ作って、そこに事業者が参加するという形として、市が行うのではなく、管理会社が管理するといった風にすればよいと考えています。そこで、現在、コミバスの車両の色はばらばらですが、輪番制にしてラッピング車両を走らせるのはどうだろうかと思っています。富山市ではミュージアムバスというのがあります。射水市にはこういうバスがあるとわかりやすくなると思います。

(委員) 一目見て、コミュニティバスだとわかるようになればよいと思います。

(会長) バスが来たら、来たよ！とツイートしてくれるような、見分けがつくバスになればよいということでしょうか。

(委員) コミュニティバスを半年使いましたが、行きは良いのですが、帰りの時間帯が合わなかったです。時間に合わせて運行してもらえるとありがたいです。また、バス停の表示が薄くなっている等、見にくくなっているのを改善すればよいかもしれないです。

(会長) それでは、ご意見等出尽くしたようですので、これで平成26年度

第1回射水市公共交通検討協議会を閉じさせていただきます。委員の皆様のご協力のおかげで、本日の会が、円滑に進行しましたことをお礼申し上げます。

さて、次回の協議会では、皆様からいただいたご意見等を参考に、本日ご提示した、「通勤通学に特化したコミュニティバス運行ルート及びダイヤ検討案」等について修正した上で、再度提示する予定です。併せて、コミュニティバス運行についての基本方針案についてもご提示し、協議いただく予定としております。よろしくお願いいたします。それでは、進行を事務局に移します。

(事務局) 本日は、貴重なご意見等いただきまして誠にありがとうございました。第2回の協議会につきましては、1月下旬～2月上旬の開催予定と考えております。次回、第2回の協議会開催まで時間がありますので、他にご意見等ございましたら、いつでも結構ですので、メールや電話等で生活安全課までご連絡ください。

なお、日程等の詳細につきましては、決定次第、事務局から改めてご連絡させていただきます。どうもありがとうございました。

(事務局) 今ほど申し上げた通りで、来年度の予算に間に合うようなことを考えておりませんので、中長期を見据えて、色々な事をおっしゃっていただけたらと考えております。また、次回の会議でやることについては、会長と副会長をこの会議で選任させていただきましたので、事前にご相談させていただければと考えております。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

【終了】